

January

コロニーやまがた

2026.1

No.24



桜田橋にかかる虹と山形コロニー

INDEX

- 02 年頭あいさつ
- 03 地域交流会開催
- 04 主な法人の事業活動報告
- 06 各福祉サービス事業活動紹介
- 08 ゼンコロ版アビリンピック
ゼンコロ リーダー層職員研修会
- 09 仲間たちの声／人権を考える
- 10 防災訓練／事業報告
今後の予定／編集後記

COLONY YAMAGATA

新年のご挨拶



理事長 須貝 壽一

あけましておめでとうござい
ます。

令和8年の新春を迎え、皆さ
まに謹んで新年のごあいさつを
申し上げます。

昨年は、戦後80年という節
目の年でした。戦争の記憶や教
訓が薄れつつある今だからこ
そ、私たちは改めて「人の尊
厳」や「平和とは何か」を問い
直す必要があるのではないで
しょうか。戦後の混乱の中か
ら、福祉の理念や制度は少し
ずつ築かれてきました。その歩
みの中で、障害のある人たちが
地域で働き、暮らし、共に生き
る社会を目指してきたことを、
今一度心に刻みたいと思いま
す。

一方で、私たちを取り巻く
環境は大きく変化していま
す。最低賃金の引き上げは、働
く人の生活を守る重要な取り
組みである一方、就労支援の
現場や事業運営においては、こ

れまで以上に工夫と努力が求
められる状況でもあります。
賃金の上昇が真に生活の安定
や希望につながるよう、制度の
はざまを取り残されることの
ない支援を、私たちは模索し続
けなければなりません。

困難な時代だからこそ、人
と人とのつながり、現場で積み
重ねてきた信頼が何よりの力
になります。障害のある方の声
に耳を傾け、職員が知恵を出
し合い、地域と手を携えなが
ら、一歩一歩前に進む。その積
み重ねが、80年の歴史を次の世
代へとつないでいく道になると
信じています。

本年も、コロナーらしく、互い
を認め合い、支え合いながら歩
んでまいりましょう。

皆さまのご健勝とご活躍を祈
念するとともに、本年も変わ
らぬご理解とご協力を賜りま
すよう、心よりお願い申し上げ
ます。

あけましておめでとうございます。

常務理事 鈴木 宏

令和8年を皆様と素晴らしい
年にしたいと強く思います。その
上で、この一年をどう歩むかを
考える中で、改めて私たちコロ
ニーの目的を見つめる機会も大
切だと感じました。そのくらい
私たちの身の回りには、何とかし
たいけど遅々として変わらないジ
レンマが山積しています。

例えば、今年の元旦で能登半
島地震から丸2年です。この
間、私たちもゼンコロとしてJDF
支援センターに職員を派遣し
てきましたが、依然復興は道半
ばです。また、物価高騰等が進
む中、労働者の社会保険適用範
囲の拡大や、最低賃金の大幅な
見直し等が進められました。が、
それらは、共に働く障害のある
仲間たちの所得や生活改善に
どの程度届いたのでしょうか。残
念ですが、私たちの社会はまだ
すべての人にやさしい社会とは
言えないようです。

私たちがすぐにでもできるこ

とは、当事者のみの課題にせず、
一人ひとりが彼らの声を聞こう
と行動することだと思っています。
彼らと景色を共有すれば、より
良い社会のあり方を同じ目線で
想像できます。彼らの声を一緒
に社会に届けようと思えるはず
です。その協同は、きつと大きな
力になると思うのです。

困ったときはお互い様。多少困
難があってもみんなで協力し、笑
いながら共に歩めるコロナーらし
さを今年はもつとピカピカに磨い
て、全員がキラキラ輝く1年にし
よう、そう心から思います。

「よしみんな、今年もコロナー丸
でがんばろう！」

こんな私たちコロナーを、本年
もどうぞよろしくお願いいたし
ます。



地域交流会を開催しました！

第21回 コロニー祭り 桜田南



2025年
10月18日 (土)
11:00~14:00



今年のコロニー祭りは、趣向を凝らしてやってみようという心にくみめて、実行委員長へ立候補しました。感染症流行から出演をストップしておりました東海大山形高校吹奏楽演奏も復活させ、一時駐車場は満車になり空き待ちの状態となりました。

「我が子がコロニー祭りで演奏している姿を微笑ましく写真に収める母親の姿が印象的でした。」

第21回地域交流会コロニー祭り実行委員長として一歩踏み出してみますと、不安もありましたが、良い実行委員のメンバーにも恵まれ無事に大役を成し遂げる事ができ、この経験を糧に今後も色々な事に目標をもってチャレンジしていきたいと思っています。

実行委員長 富樫

第4回 天童地域交流会 「芋煮会」

2025年
11月8日 (土)
11:00~13:00



第4回地域交流会「芋煮会」を開催しました。

当日はういる天童・シードはが、たかだまを利用していらっしゃるご家庭や普段お世話になっている地域の方にご来場いただきました。

今回の地域交流会では多くの方々に来ていただき賑やかな会になりました。チラシをみてきたという方も多く、私たちの事業を知っていただく良い機会になったと思います。これからこの地域と皆さまとの繋がりを大切にしていきたいと思っています。

実行委員長 軽部



主な法人の活動報告

就労選択支援事業開設

山形県コロナー就労サポートセンターでは、就労移行支援、就労定着支援に加えて、令和7年10月1日に就労選択支援事業を開設しました。就労選択支援は「働きたい」という意思を持つ障がいのある人が、自分に合った就労の道を、焦らず・見誤らず・納得して選べることを支援するために設けられたサービスです。利用者一人ひとりが自分らしい働き方を見いだせるよう、丁寧なアセスメントと相談支援を行います。就労に関する不安や迷いを整理し、進路の方向性を共に考え、これからも地域の皆さまと協力し、誰もが安心して就労への一歩を踏み出せる支援に取り組んでまいります。（大沼）



多機能型事業所を開始しました

令和7年8月1日より放課後等デイサービスの拠点を長岡から芳賀に移し、児童発達支援と放デイとの多機能型事業所となりました。放デイは小学校低学年を対象に、未就学から就学後も継続した療育を保障する場となっています。就学後も引き続き親子で楽しく歩めるサポートを大切に、共に成長を応援していける場になれるよう努めてまいります。（細谷）



JDF能登半島地震支援

令和7年8月24日～30日の期間で能登半島地震支援に行ってきました。地震発生から1年8ヵ月経過した時点でも倒壊したままの状態である旅館や建物、ゆがみのある道路や信号機がとても衝撃的でした。ようやく倒壊家屋の公費解体が進んでいるとのことでしたが、復旧には多大な時間を要しているようです。私は事業所支援に入り、主には厨房支援に携わりました。震災後の他市への人口流出があり職員不足の中、皆さん力を合わせて頑張っておられました。今はまだまだ支援の手が必要なんだろうと強く感じました。支援の輪を広げていきたいです。（斎藤）



地域貢献委員会に参加して

主な活動である河川清掃が今年も無事に終了しました。

この夏は熊・暑さ対策の壁にぶつかり作業がどうなるのか、と不安でしたが各事業所の知恵と工夫で無事に乗り切ることが出来ました。

何十年と実施してきたボランティア精神がここに生きている、ということでしょうか。地域の皆様と共に歩んできたこの活動は有志により始まったと聞いていますが今では全職員で取り組んでいます。これまで培われてきた精神に触れ、今年は今までにないアイデアもあつて新鮮な体験となりました。

自分たちの意志により、出来る範囲で主体的に向き合うことがボランティアの原点なのだ、と改めて考えさせられ学びのある活動になりました。（原田）



人材育成を支える土曜研修

山形県コロナー協会では、年間計画に基づき、土曜日を活用した職員研修を実施しています。日々の支援業務から一歩離れ、福祉制度の理解や支援の質の向上、職員同士の学び合いを目的として行っている、当協会の職員研修の取り組みについてご紹介します。

第1回研修会 令和7年5月10日(土)

感染症予防研修会、虐待防止・身体拘束について

今年度第1回目は5月10日(土)に標記内容で開催しました。

私たちは新型コロナウイルスにより日常的な業務も社会全体の仕組みや流れも一時的にストップしてしまうことだと思われられました。コロナーの各施設においては現在もコロナ禍と同様の感染対策を講じています。今回の研修では感染性胃腸炎の対策と嘔吐物処理について学びました。



虐待防止・身体拘束については、山形県の研修を受講した職員が中心となり、伝達研修を行いました。職員が研修で得たものを現場で活かせるよう、それぞれの事業所で十分な意見交換や検討ができることが大切であると思っています。

(研修担当 鈴木宏・鈴木裕子)

第2回研修会 令和7年9月20日(土)

プライバシーマーク、職員階層別研修

令和7年9月20日(土)に今年度第2回目の職員研修を行いました。全体研修としては、個人情報保護の重要性を再確認するため、プライバシーマークに関する研修を行い、日々の支援における適切な管理体制について理解を深めました。一般職員向けには、講師として鈴木一成氏をお招きし、福祉専門職としての魅力や専門性、利用者により添う姿勢の大切さについて

語っていただき、参加者からは「支援の原点を見直す機会になった」と好評でした。また、サービス管理層の職員に對しては、事業運営に欠かせない会計の基本を学ぶ勉強会を実施し、数字に基づいた運営判断や責任の所在を改めて認識する機会となりました。この回の研修を通して、職員一人ひとりが専門性と組織力の向上を目指す契機となりました。

(研修担当 大沼・浅倉)

第3回研修会 令和7年11月29日(土)

コロナーの歴史、JDF能登半島被災地支援活動報告、障がい者支援国際情勢

本研修の第3回では、協会の歴史から国内外の障がい者支援の現状まで、幅広い視点から学びを深めました。

はじめに須貝理事長より、山形県コロナー協会の成り立ちやこれまでの歩み、そこに込められた理念について講話があり、職員一人ひとりが協会の原点を改めて確認する機会となりました。

続いて齋藤さんからは、JDF能登半島被災地支援活動の報告が行われ、災害時における障がい者支援の課題や、現地で求められる支援のあり方に

ついて具体的に共有されました。

さらに鈴木常務からは、インドでの国際交流やマニラで開催されたワーカビリティ・アジア会議の内容を紹介しながら、障がい者支援を取り巻く国際的な動向や、日本の支援が果たす役割について理解を深めました。多角的な視点から学ぶことで、日々の支援を見つめ直す有意義な研修となりました。

(研修担当 加藤・阿部)



各事業所の活動紹介

就労継続支援A型

アビリンピック全国大会に参加して

今回の課題は、日本酒のラベルを作成し、それを用いたまちおこしの告知ポスターを制作するもので、既存のポスターデザインを参考に課題制作の練習を行いました。素材となる画像の切り抜きや編集など、今まで編集ソフトで使ったことがない機能を覚えるのに苦労しました。

それでも、職場の上司や先輩方の指導やアドバイスに基づき準備を行い、本番はなんとか時間内に作品を完成できましたが、素材として持ち込んだ画像の切り抜きや編集に思った以上に時間がかかってしまいました。

今大会の競技は、画像の切り抜きや編集の方法を熟知し、より早く正確に行う必要があることを痛感しました。また全国の技能の高さを知り、いい経験となりました。

この経験を日々の業務に活かし、次回はいよいよ良い作品を制作してきたいと思います。

(後藤)

放課後等デイサービス(山形)

土曜開所「スマホやネットのトラブルを防ぐための学習会」

シード山形では土曜開所の際に就労支援講座・自立生活講座として様々な活動を実施しています。11月には山形市消費生活センターの出前講座をお願いしました。実際にセンターにあつた相談内容やトラブル、中高生に多い相談等もお話ししていただきました。その中で「トラブルが起きたら一人で抱え込まず誰かに相談する!」事の大切さが皆さんの心に響いたのではないかと思います。ご参加いただいた利用者や保護者の方が安心した生活に繋げて頂ける事を願い、そして職員も今後の支援に活かしていきたいと思っています。

(小林)



児童発達支援

小児救急の研修会を開催

ういる天童・シード天童はがの全職員で当事業所の対象年齢を想定した小児救命救急についての研修を天童消防本部の方2名をお迎えして行いました。当日は食物アレルギーによるアナフィラキシーショック時の対応、心停止時の心肺蘇生法について確認を行いました。

成人と小児での対応の違いや実際に当事業所に設置してあるAEDについても再確認し、日頃からの家庭との情報共有の大切さ、救急時の職員間の連携について学びを進められました。物を設置していることに安心せず、これからも安全な環境とは何かを全職員で考え、支援につなげていきたいと思っています。

(菊地)



放課後等デイサービス(天童)

さつまいもパンケーキ作り

シード天童たかだまでは、お借りしている畑で毎年さつまいもを育てています。今年は、収穫できたさつまいも入りのパンケーキを子どもたちと作りました。

粉を混ぜる、水を量る、包丁で芋を切るなどの工程を役割分担して作りました。シード天童たかだまの活動でも計量カップの使い方や包丁の持ち方などを練習しているので、みんな手際よく作業できました。

フライ返しをお互いに「貸して」「いいよ」とやり取りをしながら、順番にパンケーキを焼きます。上手にひっくり返せると、みんな「おー!」と自然にお友達に拍手をしてくれていました。

秋の味覚が大満足した子どもたちは、「次はバナナを入れたい」「アイスをのせてもいいそう」「お肉も合うんじゃない?」とさつそく次のアイディアを話していました。

(板垣)



就労継続支援B型

水害防災体験出前講座を行いました

夏真っ只中の7月土曜開所日、川のほとりに作業所を構えるコロナーセンターでは「水害防災体験出前講座」を開催しました。県の河川課の担当者さんをお招きし、近隣の須川や坂巻川が氾濫したら…をテーマに特別な長靴での浸水時の水の重さの体験や水位のAR体験、ハザードマップの確認、防災ポトルを自分で作成するなど、防災への意識と水害の怖さを学ぶことができました。冬には白鳥が訪れる穏やかなこの川もいつ氾濫するかわかりません。利用者さんにとつては自衛の仕方を、職員にとつても避難体制を考える良い機会となりました。

(星)

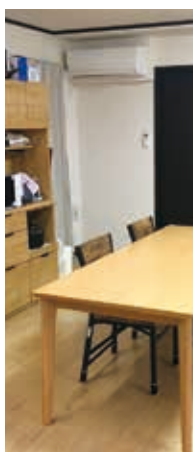


共同生活援助

グループホームの日常

「共同生活援助事業」は、グループホームを指します。現在、6つのグループホームを運営し、二十八名が生活しています。ご自身で身の回りの事が出来る方が殆どです。主に食事の部分を職員がお手伝いしています。皆さん、日中の活動先も、障害特性もそれぞれ違います。グループホームでは、互いに出来る事出来ない事を補いながら生活し、ありがたい事に世話人のお手伝いもしてくれます。皆さん、協調性を持って生活されています。休みの日には各々、余暇活動・実家に帰省する等、リフレッシュ方法も様々。ホームにはお母さんの様な存在の世話人さんが居て、食事以外にも、健康管理や、困り事や相談事等に耳を傾ける事も時々。お手紙をもらう事もあります。皆さんの生活する力を伸ばし、見守りとサポートをする事で、ホームでの生活が働く皆さんの力になればと思います。

(細谷)



就労移行支援・定着支援

職場体験を通して

今年度、就労サポートセンターでは、3回職場体験を企画しました。体験先は、飲食店・工業製品の工場・山形市役所です。働くイメージをつかみたい、どんな職場が合っているのか知りたい、日ごろの訓練の成果を試したいなどそれぞれ目的を持って挑みました。体験を通して「自分には事務作業は向いていないようです。」と自分の苦手分野に気づいた方、「このような働き方ならできるかもしれないです。」と一般就労に向けて意欲が高まった方など、それぞれ得るものがありました。これからも、施設内での訓練にとどまらずチャレンジできる機会を作っていきたいと思っています。

(長田)



村山障害者就業・生活支援センター

暮らしのセミナー

村山障害者就業・生活支援センターふうれでは、職業相談や継続して働くことができるように日常生活についての相談・支援を行っております。今年度は、一人暮らしを目指している方や自立した日常生活を身に着けたい方向けに「暮らしのセミナー」を開催しました。セミナー受講後は、実際の宿泊型自立訓練施設を見学しました。参加者(本人とご家族)は、居室の雰囲気や提供されるサービス等を直接確認することができとても貴重な機会となったようです。

(中村)



ゼンコロ版アビリンピック 山形開催

就労継続支援B型 山形コロニーセンター

山形コロニーを会場に9月12日、喫茶サービス競技と書籍デジタル化のスキル体験を行いました。東京コロニーから2名、山形コロニーから3名の方が競技に参加され、最初は皆さん緊張で競技の型に合わせた接客でしたが、徐々に慣れ臨機応変さを求められる課題②では自分なりの言葉で自然に接客している様子が見られました。いも煮を一緒に作り、外で食べながら交流した時間もとても楽しい時間でした。苦手なことでもチャレンジしてみると新たな発見や良き出会いがあると改めて実感しました。今後も全国の仲間と交流できるゼンコロアビリンピックが続いていき、多くの方がこのような機会に参加できると良いと思います。



就労継続支援A型 山形福祉工場コロニー印刷

DTP「組版」(デモ) 競技は11月26日にリモートで行われました。日頃の成果を発揮した参加者の皆さんからひとことです。

・就業時間中の開催で組版ページ作成でした。この経験で改めて作業手順を見直す機会と他の参加者の作品を見て新たな刺激を受けました。次の記念品は熊よけスプレーをお願いします。(荒木哲英)

・参加するにあたり楽しく準備した一方、不安もあり、完成させたものの自分では中途半端での提出となり悔しかったです。ひとり反省会で次への自分にGOALを。(佐藤恵美)

・今回は仕事に近い内容の組版競技開催でした。競技では短時間の中、緊張とスピードに追われ苦労しましたが作業効率を改める良い機会になりました。余談ですが競技前の食事は味がしませんでした。(荘司直人)



ゼンコロリーダー層職員研修会 参加報告

日時 2025年12月11日(木)・12日(金)
場所 中野区中部すこやか福祉センター 1階 多目的室

12月11、12日とゼンコロのリーダー研修会へ参加しました。

事前の山形での研修で「障害のある方の就労と自立」「国際的な視点」を考える機会があり、ゼンコロの方々と意見交換ができた大変貴重な研修会でした。ゼンコロ中村会長より『障害者運動の継承』をテーマに福祉制度の時代・国際的な背景、障害者権利条約、ゼンコロの障害者運動についての講義があり、考え方を整理する機会となりました。東京コロニーの井上氏からは『支援に求められる職員のスキル視点とメンタルケア』について講義があり、特に精神障害のある方への支援について、多くの示唆が得られました。ゼンコロが障害者運動を発信に行っているのは福祉工場の成り立にも表れており、現在の日本の法律や制度は障害者権利条約に基づくものであり、国際的な視点を踏まえて捉えることの重要性が改めて明確になりました。(神保)

私は、今回ゼンコロリーダー研修会初参加となりました。様々な地域の方との交流をすることができ、また、自分だけではなく、どの事業所も同じ悩みをもっていたり、独自の体験や解決策など様々なお話を聞くことができ、とても有意義なものとなりました。研修の内容の中には日ごろの支援の在り方や、ハツとするような気づきがあり、日常業務において、障がいを持った方との接し方には、より一層気をつけていきたいと思いました。

また、ゼンコロの歴史や現在までの障害者運動を知ることにより、まだまだ勉強不足なことを痛感いたしました。日ごろの支援だけではなく、こういった成り立ちで制度や権利が守られてきたのかを知る良い機会であり、今後もそういったことを踏まえて勉強していきたいです。(山川)

仲間たちのこえ

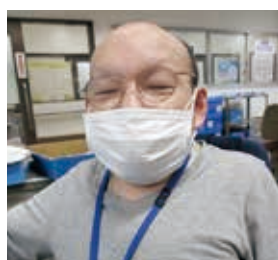


「スタッフ体験をして」

シード天童 たかだま

三浦 陽大

僕は、天童事業部 地域交流会の「芋煮会」にスタッフとして参加しました。担当したのは、ストラックアウトのコーナーで、景品を渡す係です。小さいお子さんのお客さんが来た時は、優しく目線を合わせて話すことを意識しました。シード天童たかだまの活動でも、パンの販売体験に参加して接客の練習をしていたので、ていねいに景品を渡すことができました。これから大人になって、いろいろなお店で働くと思うので、スタッフ体験ができてよかったです。来年は山形の地域交流会のスタッフも体験してみたいです！



「自立を目指して」

グループホーム

高橋 憲

南館ホームに入居して3年が経ち、自分の中では一人暮らしを考えていました。中々踏み出すことが出来ずいます。今年は、年明けからインフルエンザや交通事故にも合い、夏には熱中症にもなつて辛い年でした。休日は、仙台に行く楽しみがありますが、五十歳を越えると体力の衰えも感じ、この先、自立を目指しながら働けるかが心配になつているところです。いすれは親がいなくても、一人暮らしを出来るよう自立を目指したいと思っています。



「働き続ける」

コロニーセンター

佐藤 光

私は、気持ちに不安定になりやすいところが課題です。気持ちを切りかえて仕事に向き合う力をつけていきたいと思ってコロニーセンターで仕事をしながら頑張っています。私の楽しみは好きなアイドルのCDを買うことです。楽しみがあるのと頑張れるし気持ちも安定するので、これからも豆花笠の花づくりやデジタル化の仕事を頑張りたいです。

シリーズ 人権を考える

就労継続支援事業A型の現状から

就労継続支援事業A型

山形福祉工場

加藤 一平

NO.6

「働くこと」は、多くの人にとって生活の糧であると同時に、社会とつながり、自分の存在価値を実感する大切な営みです。障がいのある方にとってもそれは同じであり、働く権利は人権の一つとして保障されるべきものです。

就労継続支援事業A型は、雇用契約に基づき、賃金を得ながら働くことができる仕組みとして、その役割を担ってきました。しかし近年、最低賃金の引き上げや物価高騰、受注環境の変化などにより、A型事業所を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況にあります。

働くことは、単に収入を得る手段ではなく、「自分が必要とされている」という実感を持つことにつながります。その機会が失われることは、生活の不安だけでなく、尊厳や希望を損なうことにもなりかねません。就労の場を守ることは、障がいのある方の人権を日常の中で支える営みであり、私たち支

援に携わる者の大切な責任だと感じています。

その影響は、事業運営だけでなく、働く利用者一人ひとりの生活や将来にも及びます。事業の継続が難しくなれば、「働く場」そのものが失われかねません。単に制度や数字の問題として捉えるのではなく、そこにあるのは「働き続けたい」「社会の一員として役割を持ちたい」という切実な思いであることを、私たちは忘れてはならないと思います。

人権を考えると、特別な理念を語るのではなく、目の前の一人の「働く」をどう守るかを考え続けることではないでしょうか。厳しい時代だからこそ、支援のあり方や社会とのつながりを見直し、誰もが安心して働ける環境を共につくっていくことが、今、私たちに求められています。

防災訓練を行いました



一本の川に囲まれた土地に建つ山形県コロニー協会桜田南拠点では、毎年春と秋の2回防災訓練を行っています。秋の訓練では、水害対策として職員、利用者の皆さんに実際に水のうを作ってもらいました。身近にある35Lゴミ袋に水を入れ、結び、段ボール箱に入れて玄関前にたくさん設置します。それをビニールシートで覆うことで建物への浸水を遅らせることができます。

蔵王山噴火による雪解け水濁流災害、豪雨による河川氾濫災害など備えるべき事はたくさんありますが、大切なみなさんの施設職場を守るため、今後も繰り返し訓練していきます！


 社会福祉法人山形県コロニー協会
 令和7年7月～12月
 事業報告

7月30日	緊急連絡網伝達訓練
8月21日	感染症対策委員会
28日	苦情解決合同委員会、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会
9月11日	第276回理事・監事会
20日	職員研修日
10月18日	地域交流会（桜田南拠点）
30日	総合防災訓練（桜田南拠点）
31日	総合防災訓練（天童拠点）
11月8日	地域交流会（天童拠点）
20日	苦情直接受付（桜田南拠点）
27日	苦情解決合同会議、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会
29日	感染症対策委員会
12月25日	職員研修日
	第277回理事・監事会
今後の予定 令和8年1月～3月	
1月5日	年頭挨拶
15日	苦情直接受付（天童拠点）
2月14日	職員研修日
19日	感染症対策委員会
26日	苦情直接受付（桜田南拠点）

お問い合わせ・注文先

 山形県コロニーセンター
 TEL 023-622-9755


コロニーベーカリーでは、月に1回「天然酵母のパンセット」を特別セットプライス税込み1,000円にて販売しています。また、小学校や子供会等に人気の菓子パンセット税込み500円等、お得なパンセットをご用意しています。複数セットをまとめて発注いただくことも可能ですので、事前にコロニーセンターまでお問合せください。



編集後記

新年あけましておめでとございます。今年の干支は「年」。元気に駆ける馬のように、今年はスピード感と前向きさを大切にしたい年にしたいですね。無理せず、でも立ち止まりすぎず、それぞれのペースで歩みを進んでいけたらと思います。本年もよろしく願います。（加藤）



24号

2026.1 January

2026年1月15日発行

■ 山形県コロニー協会
 〒990-2322 山形県山形市桜田南1-19
 TEL 023-641-7335 FAX 023-641-7368
 発行責任者 須貝 壽一

<http://www.yamagata-colony.or.jp/>
